

矢作川流域圏懇談会通信

H26 川部会編 vol. 3



発行日：平成 26 年 8 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

第 19 回川部会WGを開催しました！

第 19 回川部会WGでは、今年度 2 回目の本川モデルの検討を行いました。現地調査と意見交換の 2 部構成で、瀬・淵の現状と課題、今後の方向性について話し合いました。

日 時：平成 26 年 8 月 25 日（月）13:00～16:30

会議場所：豊田市職員会館 2 F 第 1 会議室

参加者：28 名（事務局含む）



WGで議論した主な内容

- 現地調査では、水位が平常時より高かったものの、久澄橋下流に 2 つの瀬の存在を確認することができた。（橋直下の瀬では、アユ釣り客あり）
- 久澄橋下流では、瀬をつくる粒径の大きい石が昔はあったが、今は不足している。明治用水頭首工の湛水区間との境界が存在し、湛水区間の河床は砂成分である。
- 矢作川漁協が考えている人為的なかさ上げは、洪水の流下能力を下げ、低水路を固定してしまう点で望ましくないとこのWGでは考えるが、湛水区間との境界付近に位置する久澄橋下流の瀬は活かせる可能性があることを確認した。
- 豊田市の矢作川環境整備計画の検討に合わせて、生物の生息環境を重視するエリア、利用を重視するエリアについて、今後、考えていく必要がある。

現地調査の主な内容

1. 現地調査



久澄橋上に移動して、久澄橋付近の瀬の状況を確認しながら、矢作川漁協の木戸理事から近年の瀬の状況と課題について説明を伺いました。

- 久澄橋下流の瀬の勢いがなくなりつつあり、大きな手術をしないと元の健康な川には戻れないと考えている。
- 昔は、竜宮橋上流までアユ釣り場であった。河床低下で明治用水頭首工の湛水区間が広がり、久澄橋の少し下流までは、アユが好む石はあるが、それより下流には砂しかない。



2. 意見交換



- 手術とはどのようなものか。（光岡）
➢ 下流から順に大きな石などで瀬型を組んで、落差工のようにしていくことを考えている。（木戸）
- 川の健康な状態とはどのようなものか。（山本）
➢ 交互砂州のような区間では、瀬の繰り返しがあることが大事である。ある程度の間隔で瀬が担保されているとよい。（鷺見）
- アユの生息環境を確保するには、何が必要か。（鷺見）
➢ 必ずしも水深が浅い必要はなく、光が河床に届き、えさとなる藻が石に付着する環境が必要（木戸）
- 現在実施されている一様な河道断面（200mピッチ）や定点による検討では、瀬淵形状を計画に反映することは難しい。（鷺見）

お問合せ

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

* 矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。



主な意見交換内容 (・意見 ▶ 回答)

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

- 現地調査では、アユの話が中心であったが、生物の棲みやすさとイコールか。治水上の問題もあり、漁協が提案するように単純に河床を上げればよいということにはならないのではないか。(光岡)
- 河床を上げる場合、高水敷掘削規模を大きくする必要があると思うが、河道掘削に自由度はあるか。(内田)
- 元々瀬がなくなった原因は何かを、まずは把握する必要があると考えている。18号台風の影響を見るために、横断測量を検討している。(小林)
- その測量結果を見て検討したいと思うが、今の形状を大幅に変えることは難しいと考えている。(事務局)
- 漁協から久澄橋下流では玉石が見えないという話であり、上流では砂成分が必要だという話であったと思うが、どのように考えればよいか。(光岡)
- 明治用水頭首工付近に砂成分が多くなるのは仕方がないことで、どの区間まで玉石を求めるか。久澄橋の直下流、あるいは、そのもう一つ下流の瀬までは、確保できる可能性がある。(鷺見)
- 河床材料調査は、瀬を対象にしているわけではなく、その区間の代表的な粒径の調査結果となることから、河川のおおまかな特性を捉えるのには必要であるが、その結果が、アユ釣り人の局所的な状況の話と合わないことはよくある。いろんな調査方法・調査結果を組み合わせないと、実態は見えてこない。(内田)
- 瀬淵を見るためには、リーチスケールの視点が必要で、今の横断測量や粒径調査はそれに対応できていないのが現状である。(鷺見)
- 人為的に川をどうにかしようとしても、元に戻ろうとする可能性が大きく、思うようにはいかないのではないか。(小澤)
- 矢作川の河床形態の変遷を見ると、2000年頃に現在の形状の原型ができたと考えられ、東海豪雨以降の固定した瀬の状況は、容易には動かないのではないか。(内田)
- アユは産卵を支川でしているので、玉石の環境が本川のどこかにあれば十分なのではないか。



(1) 漁協が求める瀬について

- 39.2 km付近に潜っている瀬は、交互砂州の瀬の位置にあるので維持できる可能性はあるが、人為的に手を入れる必要があるかは今後の検討が必要である。(鷺見)
- 漁協の提案するような瀬の部分をかさ上げしてメリハリをつけることに対して、どう考えるか。(内田)
- 変化に富んでいることについては、いろんな魚にとって大切である。(光岡)
- 高水敷の掘削が、高橋下流のように瀬淵の明瞭化に貢献すれば、今、潜ってしまっている瀬を活かせる可能性はある。(鷺見)
- 明治用水頭首工の制御水位は、ゲート操作の運用ルールなどで変更できる可能性はあるか。(鷺見)



(2) 本川モデル(鶴ノ首～平戸橋下流)について

- 漁協とだいぶ考え方が違うことは見えたと思う。まず、懇談会のメンバーでどう考えるか議論できればよい。(内田)
- 河道掘削を行う必要がある。隣接する高水敷を切り下げるのが基本になっている。まず、久澄橋直下の右岸高水敷切り下げはどう考えるか。(内田)
- 河道整備は、下流から優先的に実施しているので、本川モデル付近まで到達していない。白浜工区の右岸の樹木伐採は実施する可能性がある。また、土砂関係については、年内に、ある程度の目途が立つと聞いている。(事務局)
- 上流のダム群をマサが通過しているかどうかの議論があったが、越戸ダム下流を確認したところ、先日の出水でも一部マサは通過していそうであることは確認できた。(鷺見)
- 白浜工区のワンドについて、人為的な手を入れずに変化を見ていってはどうか。(小澤)
- 台風18号でワンドが埋没してしまったため、簡易に重機を入れたが、順応的管理を念頭に極力手を入れないようにしている。(小林)
- 砂州上の列状に繁茂し始めたヤナギに関しては、伐採するかどうか判断する必要がある。(鷺見)
- 低水護岸整備について、白浜工区をモデルに、こういう形がいいというものを出せるとよい。(光岡)
- 矢作川研究所を中心に、豊田市としてあるべき矢作川の姿を考えたいということで、検討会を開催していく予定である。(鈴木)
- 人為的なかさ上げは、本川モデル全体としても望まないということが、基本的な考え方であり、生物の生息場所を見ていくのが、人の利用を重視していく場所としていくかは、豊田市の検討に合わせて、実施していく。また、国交省が管理している区間については、定期的な横断測量の資料が出てきているが、県管理区間でも不定期でよいので調査できると、貴重な結果となる。(内田)
- 河川整備計画の策定に合わせて、測量調査を実施することになる。(森)
- 矢作川の環境について、どうなってきたかということがわかるものは、漁協から提示してほしい。(鷺見)
- 竜宮橋付近の河道掘削の影響で、久澄橋付近の河床が低下しているのではないかと話がある。(事務局)



(3) 振り返り

- **よかったと思うこと**：漁協さんが現地にきてくださって具体的に話を聞くことができた。
- **よくなかったと思うこと**：漁協が議論に参加しなかったこと。/矢作川漁協の方に会議に出席して頂きたかった。
- **本川モデルの取り組み・アイデアなど**：白浜工区で維持管理手法につながる実験的試みをすべき。→樹木管理(自然発生の柳の管理)/魚(生き物)の住む所、川遊びする場所、防災(洪水)対策場所のモデル場所づくり。
- **質問など**：将来に向けて「矢作川のあるべき姿」をイメージ化して残していくことが「流域圏懇談会」のめざすところではないでしょうか。/アユが好む場所のメモがあれば数値化できるのでは。過去の記憶を数値化してはどうか？

今後の川部会 WG の予定

- 第20回(地先モデル)
日時：平成26年8月29日(金) 13:00～18:00
内容：現地確認活動団体ヒアリング
(鹿乗川を美しくする会、鳥川ホタル保存会)

- 第21回(家下川モデル)
日時：平成26年9月26日(金) 15:00～17:00
内容：段差解消に関わる関係者との意見交換
段差解消方法の検討

